

組織生検を受けられる方へ

この資料は、これから乳房の**組織生検**を受けられる方へ、検査の目的や方法、検査前後の注意事項、検査に伴う症状や合併症についてご説明するものです。内容をご確認いただき、分からないことやご心配なことがありましたら、遠慮なく医師・看護師へお尋ねください。

あまくさ乳腺クリニック

1. 組織生検とはどのような検査ですか？

組織生検は、乳房のしこりに針を刺して組織の一部を採取し、顕微鏡で詳しく調べる検査です。マンモグラフィや超音波検査などで病変が見つかった際、その病変が良性か悪性かを詳しく判断する必要がある場合に行います。

採取した組織は病理検査に提出し、病理医が顕微鏡を用いて診断します。この検査によって、画像だけでは判断しにくかった病変の診断を、確実にすることができます。

2. 検査の目的・メリット

組織生検の大きな目的は、病変が**良性か悪性かを確実に診断**することです。画像検査だけでは判断が難しいケースでも、組織を実際に採取して調べることで、より正確な診断が可能になります。

乳がんと診断された場合には、採取した組織を使って、がんの性質（ホルモン受容体の有無、HER2の状態など）を詳しく調べます。これらの結果は、今後の治療方針を決めるための大切な情報となります。

適切な治療を選択するために、組織生検は欠かせない検査です。

3. この検査の限界について

組織生検は、診断のために非常に重要な検査ですが、**病変のすべてを採取する検査ではありません。**
針で採取できる組織は病変のごく一部であるため、採取した部分だけでは診断が確定できないこともあります。

このような場合には、手術による組織検査などをご提案することがあります。

4. 検査前に確認させていただくこと

安全に検査を行うため、検査前にいくつかの重要な事項を確認させていただきます。特にお薬とアレルギーについては、検査の安全性に直接関わるため、必ずお申し出ください。

お薬について

現在使用しているお薬がある方はお知らせください。特に、**血液を固まりにくくする薬（抗血小板薬・抗凝固薬）**を使用している方は、必ず事前にお知らせください。

例として以下のお薬が挙げられます：

- ワーファリン
- プラビックス
- エリキュース
- イグザレルト
- リクシアナ など

⊗ ご自身の判断でお薬を中止しないでください。休薬が必要かどうかは、医師が判断します。

アレルギーについて

組織生検では、局所麻酔や消毒薬、医療用テープなどを使用します。以下のものでアレルギーを起こしたことがある方は、必ずお知らせください。

- 局所麻酔薬
- 鎮痛薬や抗生剤
- 消毒薬（イソジン）
- 医療用テープ・絆創膏
- その他の薬剤

アレルギーの既往があることを事前にお伝えいただくことで、代替薬の準備など適切な対応が可能になります。

5. 検査当日の注意事項

検査当日は、特別な準備は基本的に必要ありません。日常と同じように過ごしていただいて問題ありません。ただし、以下の点についてご注意ください。



食事は通常どおり

検査前の絶食は必要ありません。普段どおりお食事をお取りください。



お薬は通常どおり服用

普段飲んでいるお薬も、医師から変更の指示がない限り、通常どおり服用してください。



服装について

乳房の検査を行いますので、上半身を脱ぎ着しやすい服装でお越しください。

6. 検査の流れ

検査はいくつかのステップに分かれています。事前に流れを把握しておくことで、当日も安心して検査に臨んでいただけます。各ステップについて丁寧にご説明します。

1 超音波で病変を確認します

超音波検査で病変の位置や大きさを確認し、安全に組織を採取できる場所を確認します。

2 消毒・局所麻酔を行います

検査する部分の皮膚を消毒し、局所麻酔を行います。

麻酔の注射をするときには痛みがありますが、その後は麻酔が効いていることを確認してから検査を進めます。

3 組織を採取します

超音波で病変と針の位置を確認しながら、病変の組織を採取します。

組織を採取するときに「バン」と大きな音がします。

3～5回採取します。

検査中に痛みがある場合や気分が悪くなった場合には、我慢せずお知らせください。

4 圧迫して止血します

検査終了後は、針を刺した部分をしっかり圧迫して止血します。

止血のために弾性包帯で圧迫します。**（弾性包帯代として800円がかかります。）**

7. 検査に伴う症状・合併症について

組織生検は日常的に行われている検査ですが、針を刺して組織を採取するため、以下のような症状や合併症が起こることがあります。事前に知っておくことで、検査後も落ち着いて対処していただけます。

比較的起こりやすいもの

痛み

検査中や検査後に痛みを感じることがあります。

出血・内出血（青あざ）

針を刺した部分に出血や青あざがみられることがあります。

腫れ・血腫

皮膚の下に血液がたまり、しこりのように腫れることがあります。多くは時間とともに自然に吸収されます。

まれに起こるもの

感染

針を刺した部分から感染を起こし、赤み、腫れ、痛み、発熱などが生じることがあります。

局所麻酔によるアレルギー

まれに局所麻酔薬によるアレルギー反応が起こることがあります。

気分不良

検査への緊張や針の刺激などによって、気分が悪くなることがあります。

8. 検査後の注意事項

検査後は、出血がないことを確認してからお帰りいただきます。帰宅後も安静を保ち、以下の注意事項をお守りください。適切にお過ごしいただくことで、回復がスムーズになります。

激しい運動は控えてください

検査当日は激しい運動をお控えください。軽い日常動作は問題ありません。

飲酒は控えてください

検査当日はアルコールの摂取をお控えください。血行が促進され、出血のリスクが高まる場合があります。

入浴は2日間控えてください

2日間は入浴（湯船への浸かること）はお控えください。シャワー浴は可能です。

食事や通常の家事などは行っていただけます。日常生活の中で気になる変化があれば、遠慮なくご連絡ください。



9. このような場合はご連絡ください

検査後は基本的に安静にお過ごしいただければ問題ありませんが、以下のような症状がみられた場合は、すぐに当院へご連絡ください。早めにご連絡いただくことで、適切な対応が可能になります。



出血が止まらない

傷からの出血が続く



大きく腫れてきた

検査した部分が急激に、または大きく腫れてきた



強い痛みが続く・悪化する

強い痛みが続いたり、徐々に痛みが強くなってきた



その他、気になる症状がある

上記以外でも、気になる症状や不安なことがあれば、遠慮なくお電話ください。

 あまくさ乳腺クリニック TEL：0969-23-1102

※同意書に連絡先を記載しております。事前にご確認ください。

10. 検査結果について

検査結果は、1週間後にご説明します。結果説明の予約をお取りいただき、受診してください。結果が出るまでの間、ご不安な気持ちになることもあるかと思いますが、何かご心配なことがあればいつでもご連絡ください。

悪性の診断となった場合には、追加の病理検査を行うため、追加料金が発生します。あらかじめご了承ください。

検査後、気になる症状やご心配なことがありましたら、結果説明を待たずに当院までお電話ください。皆さまが安心して検査を受け、その後も安心してお過ごしいただけるよう、スタッフ一同サポートしてまいります。どうぞお気軽にお声がけください。